

# 北上市総合計画 2021~2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和6年度）

基本方針	2.未来を創る人づくり
基本施策	2-1.変化する社会を生き抜く「知・徳・体」の育成
関連するプロジェクト	2.学びの改革プロジェクト

国籍、心身の状態、家庭環境等を問わず、すべての児童生徒の「知・徳・体」を育てるため、豊かな自然、伝統ある郷土文化等、地域の様々な資源を活かし、教育機関との連携強化を図りながら、充実した学校教育を展開します。また、学校給食による食育を推進し、子どもたちが積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身につけ、生涯を通じて健康・安全な生活を送る基礎を培います。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後  
3

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)	達成状況評価	達成状況に至る要因の分析		今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かること) (◇:R7/◆:R8以降)	
							市の活動による影響(内部要因)			
1	教育部	● 確かな学力と情報活用能力の育成	新しい学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組み、言語能力の育成・外国語教育・プログラミング教育・理数教育等の充実を図る。また、児童生徒一人に1台タブレット端末の整備を進めることで、情報を整理・比較・発信・伝達したり、共有したりする情報活用能力の向上を図る。	①②	指標に基づく事実	①総合学力調査の結果からは、小学校では期待値をわずかに下回る平均正答率であった。 ②中学校では、期待値を下回る平均正答率であった。	B (B)	指標に関する内容	市教育委員会において学力向上に向けての課題分析が甘く、授業改善の視点を学校に明示できなかった。	総合学力調査に限らず、全国学力調査や県学力調査において獲得した知識を活用する問題や、他者の考えをもとに自分の考えを再構築する問題など、より思考力や判断力、表現力などを問う問題構成となってきたおり、ただ知識を身につけさせるだけでは正答率が伸びていかない。
								指標以外の内容	・一人一台端末の活用に向け、教員対象の研修を実施し、活用の幅を広げることができた。 ・毎月の運用定例会を実施することで、活用状況を把握し、個別の対応を行った。 ・各学校で発生した一人一台端末の運用にかかるトラブルに対し、契約している通信業者のサポートセンターに迅速に対応させた。	
2	教育部	● 不登校児童生徒への対応	不登校児童生徒の個々の状況を把握した上で、不登校児童生徒やその保護者の心情に寄り添い、丁寧且つ適切な学習支援及び相談に取り組むとともに、スクールソーシャルワーカー(SSW)等による学校以外の関係機関との連携強化を図る。	③④	指標に基づく事実	小中学校とも、前年度より不登校出現率が増加した。結果が分かっているR5年度の県、全国の不登校出現率と比較した場合、小中学校ともに全国を下回り、県を若干上回っている。 (R5出現率①小学校:市1.84・県1.58・国2.14、②中学校:市5.95・県5.51・国6.71)	B (B)	指標に関する内容	小学校・中学校ともに、学校不適応を起こす児童生徒に対し、早期発見、組織的な対応を行っているが、不適応にかかる個々の要因が複雑化しており、具体的な解決に至らないケースが多い。また、学校とのつながりが希薄になるケースが多くなっている。	個々に様々な要因があるが、医療機関から登校刺激を行わないよう指示が出される場合があり、教員の取組だけでは、解決が困難である。
								指標以外の内容	学校や社会福祉協議会等と連携をとり、定期的に保護者面談や家庭訪問を実施できるケースが増えている。	
3	教育部	● グローバルな人材の育成	外国語を学ぶ機会、科学に触れる機会の充実を図り、児童生徒における英語力と科学力の向上に取り組む。	⑤	指標に基づく事実	英検補助対象受験者数における合格者の割合は、期待値と同程度の数値となっており、その中でも難易度の高い準2級や2級の合格率は上がっている。	A (A)	指標に関する内容	・英検3級相当の英語力をつけることを目標に掲げ、達成に向け学校への周知を図った。 ・学力ステップアップ事業を通して外国語教育について小中連携が図られた。 ・H24年度からステップアップ英語講座を継続して実施している。	△北上市英語力推進アクションプランの教職員に対しての周知を図る。 △小学校外国語及び中学校英語の授業改善や教育研究所英語力向上部会による指導法の研究推進を図るとともに、英語検定補助事業、ステップアップ英語講座の継続実施とその充実によりCEFR A1レベルの英語力を身に付けた生徒の育成を目指す。 △各事業の内容を見直しながら継続実施し、外国語や科学に触れる機会を創出する。
								指標以外の内容	・チラシ配布など周知の強化を図った。 ・申し込みをQRコードの読み取りで行えるようにするなど簡略化を図った。	

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)	達成状況評価	達成状況に至る要因の分析		今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かること)(◇:R7/◆:R8以降)
							市の活動による影響(内部要因)		
4	教育部	食に関する自己管理能力の育成	食生活による肥満等への指導や、栄養教諭等が具体的に授業に参画することにより、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進する。	⑥⑦	<p>・市内の小中学生の児童・生徒の肥満やせ状況は、小学生はR5年度の12.68%から12.09%と微減しており、中学生もR5年度の11.22%から10.87%と減少している。</p>	B  (B)	<p>指標に基づく事実</p> <p>各学校と調整を図りながら食育の事業を実施(242クラス中102クラスで実施 実施率41.6%) ・3センターにおいて昼食時間に学校訪問を行い、主食、副食などの配膳量や残食状況を確認並びに児童・生徒にヒヤリングを行い嗜好の把握により努めている。</p>	<p>指標に関する内容</p> <p>各学校において肥満やせの実態に基づき、対象者に個別に指導を実施している。</p>	<p>◇食育について関心がある児童・生徒の増加やバランスのとれた食生活を身に着けるため、朝食を食べる児童・生徒の増加が図られるような食育の授業を行う。 ◆食べる力=生きる力を育むことができるような行事食や地産地消による、地元の野菜などの理解や伝統行事を学ぶ機会として特色的ある給食の提供を行う。</p>
							<p>指標以外の内容</p> <p>教育委員会で肥満やせ調査は実施しているが、各学校等における具体な取組内容及び推進状況は不明である。</p>	<p>指標以外の内容</p>	

凡例 ● 実績値 —— 期待値

